

令和5年度 事業報告書 下京いきいき市民活動センター

【指定管理者：有限責任事業組合 まちとしごと総合研究所】

1. 管理運営の状況

1 施設運営業務

(1) 職員体制

センター長 1 名、職員 8 名（常勤：1 名、非常勤：7 名）

【人材育成の取組】

- ・新採職員に対する研修（窓口対応・貸館業務等に関する OJT）
- ・センター運営に関する全体研修（年 1 回）
- ・定例スタッフミーティング（月 1 回）

(2) 貸館等

ア 利用件数

(月別)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
285	284	300	299	263	305	358	364	278	250	300	354

(年間)

3,640 件（前年度比 108%）

9,529 時間（前年度比 103%）

イ 利用状況

全体的に利用状況は好調に推移しています。

一昨年度、コロナによる閉館の影響がなかった 10～3 月の月あたりの平均利用件数を比較すると、

【316 件（R3 年度・10～3 月 月当たりの平均件数）】

【271 件（R4 年度・10～3 月 月当たりの平均件数）】

【317 件（R5 年度・10～3 月 月当たりの平均件数）】

となり、コロナ禍以前の利用状況に戻ってきつつあることがうかがえます。

ウ 利用促進に向けた取組

どうしても部屋を取りたいが、すぐにはセンターに来れないという方のニーズに応えて、「電話での仮予約」制度を開始しました。開始当初から利用が多く、年間 480 件の申請がありました。

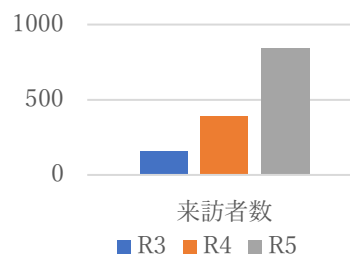
また、若年層の利用を呼び込むために「Instagram」を開設し、定期的な情報発信に努めました。必ずしも直接的なセンターの利用増につながったとは言えませんが、若年層に対するセンターの認知度を高めることにはつながりました。

エ その他

サロンの年間来訪者数は 840 名となりました。

昨年度の 2 倍以上の方にご利用いただきました。

目標としていた 1000 名には届きませんでしたが、多様な年代の利用者が訪れ、順調に推移しています。



(3) 情報発信等

ア 取組実績

貸会場の紹介や事業の取組など、若年層を中心に広く知ってもらうことを目的に、新たに **Instagram** を開設しました。また、センターに訪れる様々な人にインタビューを行い、「おもしろ人図鑑」を作成し、センターの魅力発信に取り組みました。

イ 取組の効果

発信媒体	ビュー数 リーチ数	ユーザー フォロワー	投稿数	いいね数
ホームページ	33,368 回 (105%)	11,683 名 (122%)	-	-
Facebook	148,350 回 (910.2%)	534 名 (4.3%)	151 回	4,507 回
Twitter	8,397 回	28 名	29 回	430 回
公式 LINE	-	51 名	38 回	-
Instagram	220,114 回 (100%)	160 名 (100%)	100 回	444 回

※昨年度と比較できるものは () 内に表記。

(4) 管理運営

消防用設備点検、建築設備点検等、施設保守に必要な点検を実施しました。また、スタッフの入れ替わりがあっても対応できるよう、火災等の災害時の対応方法について、フローチャートに基づいた行動マニュアルを作成しました。

(5) その他

当センターでは『団体登録制度』をとっており、登録時の設問に「当センターを知った動機」を尋ねるようにしております。その際の回答で多いものが、「知人の紹介」です。その点を踏まえ、今後は各部屋の紹介を分かりやすくまとめた広報物の設置など他の利用希望の方へ紹介しやすくなる方法を検討していきます。

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】SDGs コミュニティ オーガナイザー (SCO) の育成・支援事業 (市民活動支援・活性化事業)

- 1 開催日時：①令和5年11月26日、12月3日、12月17日 計3回
②令和5年4月～令和6年3月（随時）
- 2 開催場所：下京いきいき市民活動センター
- 3 参加人数：①延べ23名／②4団体
- 4 協力団体等：崇仁自治連合会、京都市立芸術大学、七条中央サービス会など
- 5 予算： 1,187,500 円 / 決算：1,187,500 円

1 事業内容

①連続講座「Dive-in SHIMOGYO」の実施

若者による地域活動のスタートと継続をテーマとする連続講座を実施しました。

◇【企画づくりワークショップ「地域でできること考え、企画を考えてみよう！」】

＜ゲスト＞：NPO 法人コミュニティスペース Sacula 木村友香里氏

◇【仲間づくりワークショップ「面白い仲間を作り、地域を巻き込んだ活動をしよう！」】

＜ゲスト＞：FOCUS! SHIMABARA（百瀬氏・鬼頭氏・梶浦氏・輯氏）

◇【課題整理ワークショップ「活動が続けたいから、自分たちで問題解決に近づけよう！」】

＜ゲスト＞：・Think Go 代表 佐々木郷氏

②まちづくり・地域課題解決に関心のある若者への相談対応・伴走支援

京都市立芸術大学の学生や、昨年度下京区と協働で実施した「下京ローカルグッド」の参加者など、大学生を中心とする若者が地域をよりよくしようと活動している団体を支援するための相談を随時受け付けました。

京都市立芸術大学の学生による【きょうげい B-LABO】・【あつめやさん】、下京ローカルグッド事業から生まれた【IVASHO 店街】・【Oikawa】などに対し、企画に対する助言・イベント等の事務支援・他の団体の紹介などの伴走支援を行いました。

2 準備段階での工夫

イベント広報等に Instagram を活用し、若者が共感できる情報発信を意識しました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

若者による地域活動を生み出し・活性化することを目標にしました。

(2) 事業実施による目標の達成度

若者による下京区内での様々な取組を生み出すことができました。

4 今後の抱負

今年度は、下京の東部と西部どちらのエリアでも活動を生み出すことができました。今後も引き続き、下京区全体をフィールドに若者自身のやりたいことを引き出し、地域住民のニーズと合致するような活動を生み出していきたいと思ひます。

事業風景の写真

【連続講座 Dive-in SHIMOGYO①の様子】



【商店街のシャッター店舗の前を活用したイベント「フムフム商店街」の様子】



【事業名】 事業者×市民活動の連携をもとにした魅力発信・持続化支援事業①
(市民活動支援・活性化事業)

- 1 開催日時：①令和5年4月～令和6年2月／計5回
②令和5年10月16日／令和5年11月～令和6年3月
- 2 開催場所：下京いきいき市民活動センター など
- 3 参加人数：①事業者4件、支援団体2件／②参加者：19名／6名
- 4 協力団体等：下京区中小企業家同友会・京都市クリエイティブ産業振興室など
- 5 予算： 1,187,500 円 / 決算：1,187,500 円

1 事業内容

①伝統工芸の現状・課題を明らかにするためのヒアリング・情報発信

下京区の伝統工芸の現状や協働できる可能性がある事業者を探るため、伝統工芸に関わるネットワーク団体（中小企業家同友会・市クリエイティブ産業振興室）へのヒアリングを行うとともに、そのつながりから幅広く伝統工芸従事者にヒアリングを行いました。

伝統的な手法で染色を行う「兼松染色」、西陣織の技法で大相撲の化粧まわしなどを制作する「錦旗」、京くみひもを扱う「昇苑くみひも」、京扇子を制作・販売する「山武扇舗」の方にお話を伺いました。

②伝統工芸に市民の関わりシロをつくる体験プログラム

京都の伝統的な文化を継承するために、若者が伝統工芸に携わることができ、次代の担い手を育成するためのプログラムを2件実施しました。

◇【京都デニム関わりシロ報告会】

社会人インターン「デニスク」の運営ノウハウや主催者の思いを知るイベント。

◇【大学生による伝統工芸の新たな体験の形を模索するプログラム】

学生・若手社会人のチームで、「昇苑くみひも」の工房見学・体験を行い、市民にとって親しみやすい体験プログラムの在り方を一緒に考えるワークショップ。

2 準備段階での工夫

事業者へのヒアリング結果を分析し、それぞれの事業者の強みとなる部分に焦点が当たるよう、市民が参画できる枠組みを企画することを心がけました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

伝統産業の抱える課題に対し市民が一緒に取り組めるようになることを目標としました。

(2) 事業実施による目標の達成度

主婦層や大学生が参加し、参加者層にあわせた取組を提示することができました。

4 今後の抱負

主婦層には定期的に通う“習い事”として、学生層には単発・短期的な“体験”にニーズがあることがわかりました。また、工芸のもつサステナブルな側面に魅力があることもわかり、そのような市民側のニーズを取り入れたプログラム開発を実施していきたいと思います。

事業風景の写真

【京都デニム関わりシロ報告会の様子】



【大学生が企画するくみひも体験ツアーの様子】



【事業名】 事業者×市民活動の連携をもとにした魅力発信・持続化支援事業②
(市民活動支援・活性化事業)

- 1 開催日時：令和5年9月19日／9月28日／令和6年1月20日／2月10日・11日
- 2 開催場所：下京区：崇仁学区・菊浜学区 南区：陶化学区
- 3 参加人数：延べ参加者数：20名／HPビュー数：199回
- 4 協力団体等：京都市立芸術大学、京都多文化交流ネットワークサロンなど
- 5 予算： 1,187,500 円 / 決算：1,187,500 円

1 事業内容

①京都駅東エリアの関係人口を創出する「イーストサイドストーリー」の実施

大きな歴史的変換点を迎えている京都駅東エリアをフィールドに、先行して関係人口となったナビゲーターから、どのように地域に溶け込んだのかを学プログラムを実施しました。

◇「煮ごごり一緒につくりませんか？」

学生時代にであった崇仁学区のおばあちゃんに教わった「ホルモンの煮凝り」を、ツアー参加者と一緒につくるプログラム。

◇「八方ミシンを一緒に攻略しませんか？」

地域の方から頂いた”八方ミシン”と芸大生の物語と、その使い方をツアー参加者と一緒に考えるプログラム。

◇「シャングリラ菊浜」

菊浜学区の建築と地域に根差す活動をするまでを追体験するプログラム。

◇「SUJIN CRAFT TOUR」

皮革業・靴産業が盛んだった崇仁地域において、地域の店舗をめぐりミニチュアの革靴づくりを体験できるプログラム。

②「イーストサイドストーリー」のランディングページ・アーカイブの制作による情報発信

ツアープログラムの情報発信を行うにあたって、事業コンセプトやツアー概要・アーカイブなどを保存・閲覧できるランディングページの制作を行いました。

2 準備段階での工夫

まちあるきやレクチャーだけでなく、参加者同士の交流時間などを意識的に組み込むことで、参加者のコミットメントを高めるプログラムづくりを意識しました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

地域を訪れる来訪者が地域課題に関心をもって関わるようになることを目標としました。

(2) 事業実施による目標の達成度

実施後も継続して訪ねてくださる方がおり、事業の有効性を確かめることができました。

4 今後の抱負

引き続き、下京東部エリアの人的資源の発掘・実施を進めるとともに、下京西部エリアや近隣の地域にも範囲を広げてプログラムを実施していきたいと思います。

事業風景の写真

【煮凝りを一緒につくりませんか？ 地域の精肉店を来訪したときの様子】



【八方ミシンを一緒に攻略しませんか 参加者が八方ミシンを動かす様子】



【事業名】ダイバーシティを学び・表現するための多世代交流拠点化事業
(サロン運営・活用事業)

- 1 開催日時：①令和5年4月～令和6年3月
②令和5年4月26日／令和6年1月13日～1月28日・3月29日
- 2 開催場所：ふれあいサロン・下京いきいき市民活動センター
- 3 参加人数：サロン来館者数延べ840名
- 4 協力団体等：京都市立芸術大学 など
- 5 予算： 1,187,500 円 / 決算：1,187,500 円

1 事業内容

①誰もが訪れやすい拠点にするための施設整備

多様な方が気軽に集まれる場ができるように設備を整備したり、毎月1回“音楽カフェ”“笑ヨガカフェ”“防災カフェ”など定期的な催しを企画・開催したりしました。

②「アート」・「ものづくり」・「音楽」・「遊び」・「食」など、多様な切り口から地域課題の解決へつながるプロジェクトの創出

サロンの利用者が中心となって、地域課題を解決する新たな取組を生み出しました。

◇防災カフェから生まれた「企画展：五行歌 震災のうた展」

東日本大震災の体験をもとに書かれた五行歌の展示や、紙芝居の実演、親子向けのローリングストック体験（お菓子バッグづくり）、ボールを使った遊び（バルシューレ）などを実施しました。

◇芸大生による「アート×食」を切り口にしたイベント

京都市立芸術大学に通う学生が参加できる「煮凝りワークショップ」を地域住民の方と一緒に企画しました。また、大学内に食堂や購買がなく、昼食を一緒に食べることがない学生を対象に「絶望名人のおにぎりパーティー」を学生自ら企画・実施しました。

2 準備段階での工夫

自然発生的に取組が生まれるような来訪者とのコミュニケーションを意識しました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

多様な世代の来訪者が訪れ、地域に還元できる取組を生み出すことを目標にしました。

(2) 事業実施による目標の達成度

大学移転に伴って芸大生が利用する機会も増え、多様な年代の利用が進みました。

4 今後の抱負

地域住民の利用が少なく、またセンターとは違う自由な環境を活かして、地域課題から市民活動を生み出すのではなく、自由な集まりの場から“遊び”の感覚で市民活動が生まれていく場にしていきたいと思っています。

事業風景の写真

【防災カフェメンバーが企画した お菓子バッグづくりワークショップの様子】



【芸大の大学の授業の一環で実施した「煮凝りワークショップ」の様子】



3. 利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

1 利用料金の収入実績

令和5年度実績：6,270,580円（前年度比129%）

（内訳 会議室等：6,215,800円
付属設備：54,780円 ※自主事業分を除く）

2 管理運営に係る経費の収支決算

別紙収支決算書のとおり

4. 施設の利用者満足度の把握

1 利用者満足度の把握状況

（1）全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】令和5年11月実施

【調査項目】窓口サービス

（2）センター独自アンケート

特になし

2 利用者満足度把握の結果

（1）全センター共通窓口サービス

たいへん満足	満足	不満	たいへん不満	無回答
39%	58.8%	0.3%	0%	1.9%

（※質問7項目の平均点を記載しています。）

（2）センター独自アンケート

特になし

3 意見等への主な対応状況

・「施設に気付かず通り過ぎてしまった」という意見があり、センター外部の掲示板の情報を整理し、新たにセンターの貸館情報などを掲載いたしました。

・「集会室の掃除が不十分」「集会室のオーディオの不調がまだ直らない」という意見があり、改めてスタッフ全体で清掃方法を確認しました。また、機械・設備などの不調が見つかった場合の、施設管理担当者に速やかに報告することを徹底するようにしました。

5. 指定管理者による管理運営業務の自己評価

【事業等の総括】

・(センター運営)

貸館の利用状況はコロナ・料金改定以前の状況に戻りつつあり、引き続き利用満足度が高い状態を維持することもできていますので、こうした状況を継続していけるよう努めていきます。昨年度の課題であった光熱水費についても、電力会社の見直し・スタッフによる節電対策の徹底などにより、状況を改善することができました。

・(市民活動支援・活性化事業)

大学生や若手社会人などの若者が中心になって、新たな活動を生み出すことができています。地域のニーズに寄り添いながら、なおかつ若者自身のやりたいことが実現できる、そうした取組を生み出せる事業展開を引き続き実施していきます。

・(サロン運営)

サロンを中心に多様な年代のコミュニティが徐々に生まれてきています。特に、一部の京都市立芸術大学の学生が、地域住民と繋がりながらモノづくりを行う場所として使用するなど、単に交流するための場所ではなく取組を生み出す場にしていきたいと思います。

【今後の課題】

・(センター運営)

開館後 15 年が経過しセンターの様々な設備に経年劣化が見られます。火災報知器や非常時の誘導灯のバッテリー交換など、災害時の悪影響が想定されるものもあるため、市と相談しながら改修していく必要があります。また、物価高騰・最低賃金の改定などに対応し、限られた資源の中でスタッフ一人ひとりの生活を確保していくことも課題の一つです。

・(市民活動支援・活性化事業)

若者の地域活動への伴走支援を通じて、地域の事情・課題や活動者一人ひとりの思い・状況に寄り添うことの難しさを実感しました。スタッフ一人ひとりが、形式的な支援体制にとらわれず、状況に応じて必要な支援を提案できる力を身につけていくことが必要です。

・(サロン運営)

芸大が開校し、学生の利用が増えています。また子どもや子育て層の利用なども促進していく上で、改めて老朽化した設備の改修（男女共用のトイレ・錆が出る水道・旧称の施設案内など）や開館時間の変更などを検討していく必要があります。

【次年度に向けた対応】

いよいよ、京都市立美術工芸高校・京都市立芸術大学が開校しました。センター周辺でも多くの若者が行き交う様子が頻繁にみられるようになりました。しかし、そうした若者と生活をしている地域住民との交流は多くはありません。文化・芸術を活かしたまちづくりを推進していくためにも、地域と若者をつなぐセンターの役割を強化・発信していきます。

また、コロナ禍を経て地域活動・経済活動ともに本格化してきています。オンラインツールの普及などの変化はあったものの、地域の担い手不足・オーバーツーリズム等の課題は解決されず再び顕在化してきています。人口減少・高齢化の進む地域社会において、改めて持続可能性を問い直し、未来を提示できるような取組を生み出していきたいと思います。

6. その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項

- 施設の管理運営（事業の実施を含む）に当たって、何か重要又は異例な事項があれば記載してください。
- 特になし。

【締め切り】

5月22日（水）までに地域自治推進室へデータ1部＋紙1部を提出

※ 地域自治推進室の確認後、紙の残部（17部又は18部）を提出

※ 収支決算書は、5月15日（水）までに提出してください。